

TEN

TEACHING ENGLISH NOW

英語教師のための情報誌

Vol. 56

特集

題材を自分に引き寄せて 考えるための指導のヒント

巻頭エッセイ

表紙裏 生きている限り、学びは続く 井出 留美

特集

題材を自分に引き寄せて考えるための指導のヒント

- 01 社会と教科書、そして生徒の思考をつなぐ英語授業のヒント 津久井 貴之
- 04 レッスンピックを「自分ごと」にする導入の工夫 山形 悟史
- 06 題材を自分のことばで語る表現活動へとつなげる工夫 会田 裕子

連載

- 08 実践 NEW CROWN ーわたしの授業紹介ー 清家 大地
- 10 英語教師のための基礎講座 生徒のニーズを活かす英語授業①ー教科書を用いて語彙の習得を進める工夫 日臺 滋之
- 11 Essay Washback: The Influence of Tests on Teaching and Learning David Allen
- 11 リクツで納得! 学校英文法の「文法」 In the shape of apostrophe s ('s) 亘理 陽一
- 12 明日の授業と評価をブラッシュアップするQ&A 臼倉 美里
- 13 TEN通信 三省堂教科書・教材サイト／ことまな学校サポートサイト

SANSEIDO

生きている限り、学びは続く

井出 留美 Ide Rumi



ジャーナリスト。株式会社office 3.11代表取締役。博士（栄養学）、修士（農学）。食品ロスを全国的に注目されるレベルまで引き上げたとして第2回食生活ジャーナリスト大賞食文化部門受賞。Yahoo!ニュース個人オースターアワード2018、令和2年度食品ロス削減推進大賞消費者庁長官賞受賞。

東日本大震災をきっかけに、被災地への食料支援に携わり、その後、会社を辞めて独立。フードバンクの広報責任者などをつとめました。毎朝のオンライン英会話のレッスンは、海外での活動の自信につながっています。

留美という名は母が「これからは国際化社会だから外国人にも呼びやすい名前を」とつけた。亡父の出身地、久留米の「留」も名前に含まれている。

転勤の多い銀行員の父について北海道から九州まで転々として育ち、内向的でしゃべらない子だった。5歳のとき、母が作るくず湯が、液体からゲル状に変わるのに興味を持った。大学は、高校生のときに食品成分表を読んで栄養価に関心を持ったことから、食物学科を選んだ。入学後、銀行員の父が支店長に昇格したが、その5ヶ月後に46歳で急逝した。母と弟のところへ戻るため、関西の食品メーカーへの就職を断念し、東京の日用品メーカーに入社した。入社後に受けたTOEICは300点台だった。

会社の同期5人でボランティアに取り組み発表した「介護用品の開発」が社内コンテストで準優勝。ご褒美は東南アジア研修旅行だった。この経験がきっかけで、**食の分野で人の役に立ちたい**という思いから会社を辞め、JICA海外協力隊に参加し、フィリピンで食品加工隊員として活動した。日本から英語教材を送ってもらい1日3時間勉強した。



JICA海外協力隊員として、フィリピンでモロヘイヤの春巻きの作り方を村の女性に指導

2年の任期を終えようというとき、うつ状態で帰国した。1年かけて自分を取り戻し、念願の食品メーカーで、世界180カ国で展開するグローバル企業に入社、広報・お客様対応・栄養関連業務に携わった。当時のTOEICは700点だったが、上司から「話にならない」と言われ、何度も受験して840点を取った。アイルランドや英国、韓国、中国、カナダへ出張した。社会人になってから2つの大学院に通い、博士号（栄養学）と修士号（農学）を取得したのも上司に勧められたことがきっかけだ。2008年に、米国本社から「日本にもフードバンクがあるから寄付したら」と勧められ、商品の寄付を始めた。

2011年、東日本大震災が発生。食料支援をおこなう中で「同じ食べ物でもメーカーが違えば平等ではないので配らない」などの理由で食料がだめになるのを知った。**食料があるのに必要とする人には届かないというもどかしさを抱え、会社を辞めて独立**。転職の日と自身の誕生日にちなみ、社名は「3.11」とした。その後3年間は、2008年から寄付していたフードバンク「セカンドハーベスト・ジャパン」の広報責任者をつとめた。



アプリで食品ロスを50%削減したスウェーデンのスーパーの店長に取材

2017年からは政府のASEANプロジェクトの一環として、東南アジアの大学で講演をおこなっている。2025年はフィリピンとタイの大学で、ITを活用した食品ロス削減について英語で講演をおこなった。講演でのQ&Aが難しいので2023年から毎朝、オンライン英会話レッスンを続けている。このレッスンが、海外で活動をおこなう自信につながっている。

英語を使う中で学んだことは自分の意思や考えをしっかり持つことだ。たとえば言葉が流ちょうでも自分の中身が空っぽなら何も伝わらない。**自分が何を考え、何を伝えたいのか。それがあってこそそのコミュニケーションだ**と思う。

食品業界の商慣行に「3分の1ルール」というものがある。私はこのルールが食品ロスの一因と考えている。このことは私が2012年に、NHKに出演して初めて発言し、指摘してきたことだ。食品ロスはこのルールのようなヒエラルキー（上下関係）が生み出している。

2025年5月、公正取引委員会はこのルールについて、場合によっては独占禁止法違反のおそれがあるとの見解を示した。13年経ってようやく社会が動き出した。誰もが対等でフラットな社会になってほしい。



米国・シリコンバレーのフードバンク「セカンドハーベスト」を取材

題材を自分に引き寄せて考えるための

指導のヒント

NEW CROWNでは、他の教科で学んだ内容を、外国語科の学びと結びつけることで、理解を深めたり、広い視野で思考・判断したり、表現をより豊かなものにするを旨とし、題材を選定しています。しかし、こういった「社会的な話題」の題材の場合、「生徒が自分に引き寄せて考えるのが難しい」と指導に悩んでいる先生がたも多いのではないのでしょうか。本特集では、教科書における題材の役割や、「社会的な話題」の題材を扱う際の指導の工夫について津久井貴之先生に解説いただき、指導の実践例を山形悟史先生と会田裕子先生に紹介いただきます。

- 01 社会と教科書、そして生徒の思考をつなぐ英語授業のヒント 津久井 貴之
- 04 レッスンピックを「自分ごと」にする導入の工夫 山形 悟史
- 06 題材を自分のことばで語る表現活動へとつなげる工夫 会田 裕子

社会と教科書、そして生徒の思考をつなぐ 英語授業のヒント

津久井 貴之（群馬大学）

「日常的な話題」の一步外へ —「社会的な話題」の題材の持つ意味と役割

社会的な話題の題材の扱いは、中学校の英語の指導における大きな課題の1つである。ここでは、社会的な話題の題材の持つ意味や役割を考えてみたい。

まず、社会的な話題の題材を扱う授業は、中学校の英語の授業の特徴の1つである。中学校学習指導要領（平成29年告示）で「聞くこと」の目標ウは、「はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする」である。小学校の外国語科では「日常生活に関する身近で簡単な事柄」のみを取り上げるのに対し、「中学校では広く日常的な話題から社会的な話

題まで扱うことに留意する必要がある」（中学校学習指導要領解説 外国語編）とある。また、社会的な話題の題材を扱う単元の学習を意図的・計画的に進めることで、「自分と自分の身の回りのこと」を扱うだけでは得られない思考の広がりや深まり、表現する内容の深さやこだわりにつなげられる。学習指導要領では、「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」の目標ウにおいて、「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて」考えたことや感じたこと、その理由などを英語で表現することが求められている。いわゆる「領域統合型の言語活動」が求められているわけだが、社会的な話題を扱うレッスンに出てきた新出文法事項だけを取り出して題材とあまり関係のない表現活動を行うのではなく、題材そのものが持つ内容的な深さや視点の広がりを生徒の多様な考え方や視点につなげ、自分や身の回りのことだけでなく、社会で起きている問題への関心や気づきを引き出し、考えたり表現し合ったりする言語活動に取り組みたい。教師も生徒も「日常的な話題」から一步外へ出てチャレンジする姿勢が求められている。

「社会的な話題」の題材を扱う際の指導 —理解を深める活動の工夫

ここでは、社会的な話題の題材を扱う際の、「理解を深める」活動における工夫を整理する。社会的な話題に関する英文は、その分野の専門用語が出てきたり、社会的な話題そのものが生徒にとって興味・関心がわきにくかったりすることが考えられる。英文そのものが難しいのか、そこに出てくる専門用語や扱う社会的な話題自体が生徒に難しさを感じさせているのか、生徒の実態をアンケートやふり返りなどからできるだけの確に捉えたい。そのうえで、理解を深める活動における工夫として、以下の3つのポイントを挙げたい。

POINT ① 背景知識を活性化させる工夫

社会的な話題の題材は、地域社会や国内外で今日的課題として問題となっているものが多い。新聞やインターネット、動画などで取り上げられているので、図表や関係者の声などを、背景知識を活性化させるための教材として活用することが考えられる。特に現在は、動画や画像のコンテンツが充実しており、「理解を深めるための事前・事後の支援」として活用したい。その際は以下に注意する。

- ・虚偽の情報やフェイク動画でないか留意すること
- ・英文を読む必要がなくならないように注意すること
 - ※動画を視聴することは、あくまで英文を読むための「支援」なので、英文を「読んでみたい」と思わせたり、英文が読みやすくなるのが理想的である。
- ・英語の音声に加えて、アニメや図表など、わかりやすい視覚情報があること
 - ※キーワードだけを聞き取らせたり、事前にキーワードを日本語で示したりして、「どこかでそのキーワードが英語で出てくるよ」と生徒に声をかけてから視聴するなど工夫したい。

また、動画コンテンツは、レッスンの事前・事後どちらの使用でも効果があるだろうが、筆者は「事前の支援」としての活用を勧める。なぜなら、背景知識を活性化させ、対象の題材を扱う教科書本文の内容を映像で理解できた状態でも、その後に教科書本文を実際に生徒自身が聞いたり読んだりすることで、英語を「聞けた」「読めた」という実感や達成感を味わってほしいからである。極端な例としては、事後に教科書本文が伝えている情報を網羅するような映像を日本語音声で見ても、生徒が教科書本文に戻って英文から情報を得たり理解を確認したりすることがなくなってしまう。

POINT ② 生徒の既習事項、身近な話題や出来事とつなげる工夫

昨年度、茨城県のある公立中学校で授業実践をする機会をいただいた。国内の外国人居住者の災害対策や避難という社会的な話題を扱った単元だったが、これをいかに生徒の住む地域や学校生活とつなげられるか。ここに最も指導のエネルギーを割いた。まず、その中学校のウェブサイトや避難訓練の様子を調べ、筆者の居住地の中学校の避難方法（水平避難）とは異なる避難（垂直避難）であることを見つけ、「evacuation drill」が本文に出てくるところで

発問をし、地域で想定される災害によって避難方法が異なることに気づかせた。

また、市役所に電話をしてその市に住む外国人居住者数と主な出身国について情報収集を行った。教科書本文で“foreign residents”が出てきたところで、既習の「分詞の後置修飾」を用いて“How many foreign residents, foreign people living in your city are there? Which countries are they from?”と発問し、教科書本文と生徒が住む地域をつなげる工夫をした。

POINT ③ 教科書本文から思考を促す工夫

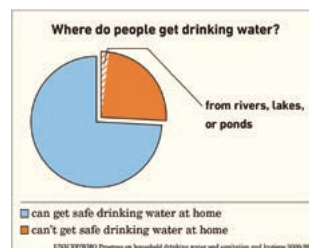
教科書本文に書かれている情報や内容について教師が発問を工夫することで、英文を再度読み直す、あるいは英文が表している意味はどういうことなのかを考えたり、ペアやグループで話し合ったりすることができたら理想的だ。社会的な話題の題材を扱う教科書本文の時こそ、教師の教材研究は「英文を熟読し、発問を考えること」にエネルギーを割いてほしい。その際、教師は「教室が一瞬静まり返ること」を恐れないでほしい。英語の授業における静寂の怖さは筆者自身も何度も体験がある。しかし、教師の発問によって生徒たちが思考を揺さぶられ、「えっ、それってどういうこと?」「なぜだろう?」と思えば、むしろ教室は一旦静かになるはずだ。

次に、先述の3つのポイントについて、NEW CROWN（以下、NC）で社会的な話題を扱う単元を用いて具体的に考えてみたい。

指導例1 NC2 Lesson 4 “Safe Clean Water”

POINT ① 背景知識を活性化させる工夫：“Safe Clean Water”

（安全できれいな水）が題材のレッスンであるが、Part 1-2は花とディヌーが水問題について調べて発表する場面が描かれている。Part 2のScene 2であれば、下図のグラフの“from rivers, lakes, or ponds”を空欄にしてどこから飲み水を得るのか想像させたり、飲み水をくみに何キロも歩く姿を映した動画や画像を示したりしてから英文の読解に入ることが考えられるだろう。



2年Lesson 4 Part 2 Scene 2

POINT ② 生徒の既習事項、身近な話題や出来事とつなげる工夫：

このレッスンでは、水問題を扱う教科書本文の学習後に、「身近な環境問題について、シンガポールの姉妹校の生徒と情報交換することになりました。陸たちと一緒に、問題点と解決策をレポートにまとめよう」という単元のゴールの言語活動（Goal Activity）が設定されている。社会的な話題として水問題を扱った教科書本文と切り離さず、Goal Activityへとつなげたい。社会的な話題（水問題）の教科書本文とGoal Activity（身近な環境問題に関するレポート）の「橋渡し」は教師の重要な役割である。例えば、以下のように教師が仲介することができるだろう。

We learned about water problems today. Do you think water problems only affect water? What else can they affect? For example, our food, animals, trash in rivers, or even the air? A-san said, “Water problems cause dirty air.” What do you think? How are water and air problems connected? Can you explain or give an example?

POINT ③ 教科書本文から思考を促す工夫：本文中に以下の一節がある。

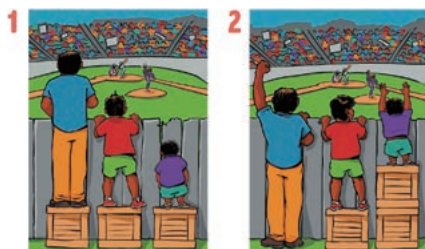
“About 120 million people in the world need to drink water from rivers, lakes, or ponds. That water is often dirty.”

この英文について、“Does this mean all over the world? In every country? No? Then ... which countries? Can you guess? Where do these people live?”などと発問して思考を促したい。タブレット端末などを使用して調べる生徒がいてもよいだろう。また、以下のような発問も考えられる。

It says “dirty water.” But how dirty is it? Look at this photo. (汚れた水の写真を提示) Can you imagine drinking this? Some children even die because of this water. They get sick and die. But ... why do they drink it? They know it is dangerous. They know they may get sick or die. Still ... they drink it. Why? What kind of situation is this? (生徒に考えさせるため十分な間を取る) Is it really their choice?

指導例2 NC3 Lesson 6 “Being Fair”

POINT ① 背景知識を活性化させる工夫：ここで扱われている題材はfairness（公平さ）である。この単元のGoal Activityは「読むこと」であり、身近な社会問題を解説している英語のウェブサイトの“What is ‘Fairness’ ?”という記事を読み、要点を捉えることが目標になっている。本文中には、equality（平等）とequity（公正）という単語は出てこないが、「公平さ」を考えるためにこの2つの概念を取り上げ、イラストを例に説明している。



3年Lesson 6 Goal Activity

このイラストと同様の趣旨の画像や動画はネットで検索をすると豊富にあるが、ここではこの2枚のイラストを用いて背景知識を活性化させる方法を提案する。なぜなら、概念の定義に踏み込みすぎると生徒は混乱するだろうし、事前に動画視聴を行う際は、英文を全く読む必要がなくならないように注意しなければならない。例えば、以下のような発問が考えられる。

At our school, sometimes everyone gets the same homework or same amount of time for lunch. Is that always fair? Someone may need more time, or more help. Is “same” always “fair”? Look at this picture. Everyone has one box, right? This man can see the baseball game, but ... this boy cannot. Is “same” always “fair”? Now you will read the article on a website. You can find two types of fairness.

POINT ② 生徒の既習事項、身近な話題や出来事とつなげる工夫：

社会的な話題を生徒の日常的な話題や学校生活につなげる工夫の一例である。このGoal Activityの英文を読む前に、“We have been thinking about fairness and being fair. Which school rule do you think is fair? Which school rule do you think is unfair? Let’s share our ideas!”と発問して簡単な共有活動を行っておく。本文を読み終えた後、“Let’s think about our school rules again with the picture on the right (左下の右のイラスト) . Are there any rules that follow this idea? If not, can you make a new rule using this idea? Let’s think and share in groups!”と投げかける。

POINT ③ 教科書本文から思考を促す工夫：本文中にクッキーの分け方が取り上げられていることを生かして次のような展開が考えられる。

Now, look at this picture. These are my nephews, my brother’s sons. (実際の写真を提示) Yuma is nine and big. He does judo. Manato is six and small. He loves cookies. You have five cookies. Using the two ideas of fairness from the article, how will you give them to my nephews? Talk in groups and explain your ideas. In the article, which way is really fair? After your group decides which way to choose, think about how to explain your choice to my nephews.

おわりに

社会的な話題の題材について、「英語を通して理解できたことや気づいたことがあった」「英語をもっと学んだら授業で考えたことを言える（書ける）ようになるかな…」という生徒の達成感や表現意欲を育てたい。英語の授業で社会的な話題をどこまで深掘りするかを教師が見極め、教科書本文を通して題材の理解を深め、生徒の思考を促し、日常的な話題や生徒の身の回りの出来事とのつながりを持たせる。学校の外の社会と教科書と生徒を、英語を通して「橋渡しする」役割が教師には求められている。



津久井 貴之

・群馬大学教育学部・同大学院修了。
・大妻中学高等学校教諭などを経て、
現在群馬大学講師。

レスポントピックを 「自分ごと」にする導入の工夫



山形 悟史
(岡山大学)

中学校における英語の授業では、4技能5領域の運用を通して、文法事項や語彙といった言語知識を習得することに焦点が当たりがちです。しかし同時に、教科書に収録された多様な題材を通じて、自分とは異なる文化や背景を持つ人を思いやり、共に生きていくために何ができるかを考え、自ら行動できる力を育むことも重要です。

NEW CROWN（以下、NC）では、これまで伝統的に社会的・科学的・歴史的な題材が数多く取り上げられてきました。これらはとても価値のある内容ですが、一方で中学生の日常生活からは少し距離があることも多く、内容を理解したり、登場する人たちの思いに共感したりすることが難しいという声を耳にすることもあります。

本稿では、社会的・科学的・歴史的な題材を「自分ごと」としてとらえられるようにするにはどうすればよいか、という視点から考えていきます。また、題材を導入する際の工夫や具体的な方法について、学年ごとにアイデアを紹介していきます。

指導例1 NC1 Lesson 9 “Emergency Food”

■タスク活動を用いて関心を高める

Lesson 9では、非常食というトピックを通じて、非常時への備えの重要性を学びます。扉のページでは、非常持ち出し袋とその中に収納されている非常用アイテムの画像が提示されています。まずは、内容スキーマの活性化を図るため、What am I?クイズなどを行って、それぞれのアイテムを導入してみてもはいかがでしょうか。

(What am I? クイズの例)

Let me introduce myself.

You can wake me up by turning a small handle.

I don't play your favorite songs.

I talk about danger, not anime.

What am I?

<答え: emergency radio>

クイズを通してアイテムを導入した後、「非常持ち出し袋に入れるものを3つ選んでください」という指示を出します。選んだアイテムと、それを選んだ理由について、まずは個人で考えさせます。次に、グループに分かれて互いに選んだ3つのアイテムを共有し、「2つに絞るとしたら何を選ぶか」と指示を出して、さらに話し合いを行います。

ここで重要なのは、「2つに絞る」という制限を設けることで、言語活動にタスク性を持たせられる点です。タスクとは、学習者同士の情報の授受によって解消すべき問題を乗り越えながら、そこで用いる表現や形式を問わず、与えられた課題を解決する言語活動のことを指します（加藤、2020: 12）。ここで言う課題とは、「非常持ち出し袋に入れるアイテムについて、グループ内で合意を形成する」

ことです。

生徒たちは、小学校及び中学1年生で学んだ表現を用いて話し合いながら、合意点を模索します。比較しながら自分が必要だと思うアイテムに優先順位をつけることで、教科書の題材を「自分ごと」としてとらえることができるでしょう。また、他者と意見交換をすることで、自分とは異なる考えを理解し、受け入れる力を育むこともできます。もし時間に余裕があれば、「クラスおよび学年で人気のアイテムベスト3」を集計し、共有するような活動も可能です。

(話し合いの例)

Yuki: We can take only two things. What do we need?

Ken: Well, we need water.

Ami: Hmm, food is also important. We'll get hungry.

Yuki: I see. But we can use water in many ways. We can drink it and wash with it. We need water.

Ami: OK. Let's take water. What's next?

Ken: I want light at night. A flashlight is good.

Yuki: You are right!

Ken: Yes, we can use it at night. It's dark outside.

Ami: Alright. Water and a flashlight.

Yuki: Yes, those are good choices!

指導例2 NC2 Lesson 4 “Safe Clean Water”

■論理的な説明を通して理解を深める

このレッスンでは、「安全な飲み水」の重要性を理解することを出発点とし、環境問題に対して個人がどのように貢献できるかを考えることが主題となります。しかし、日本という水資源に比較的恵まれた国で暮らす生徒たちにとって、水のありがたみを実感することは簡単ではありません。川や海といった自然の水が身近にあり、蛇口をひねれば安全な水が当たり前に出てくる日常の中で、水の入手が困難な国や地域の現状を想像するのは難しいでしょう。もちろん、社会科や道德の授業などを通じて、生徒たちはすでに「水くみに多くの時間を取られ、学校に通えない子どもたち」の事例に触れているかもしれません。

しかし、生徒たちは「自分たちが節水しても、その水が直接その子どもたちのもとに届くわけではない」という現実も理解しているはず。このような認識は、「環境問題の深刻さは理解しているが、果たして自分たちにできることがあるのだろうか」という他人事のような感覚につながっている可能性があります。だからこそ、本レッスンでは、「なぜ節水が環境保護に貢献し得るのか」という因果関係を、生徒に段階的に説明し、理解を深めさせていくことが重要です。

まずは、教科書 p.45に提示されている写真（草木への水やり、洗濯、シャワーなど）をもとに、それぞれの場面で毎回どれくらいの水が使用されているかを、生徒とやり取りしながら確認します。これにより、生活用水の使用量が予想以上に多いことを、生徒たちは改めて実感することができます。

（やり取りの例）

T: Today, we're going to do a short quiz about water.
We use water every day, right? What do we use it for?
S1: I water the plants in the garden every morning.
S2: I wash my face and hands.
S3: I take a bath every night.
T: Great! But how much water do we really use for each activity? Let's try to guess. After each question, I'll tell you the answer — and how many plastic bottles (500ml) that equals. You'll be surprised!
Ss: OK!
T: Question 1. When we do the laundry once, how much water do we use?
A 20 liters B 50 liters C 100 liters
S1: A?
T: Much more.
S2: B?
T: Exactly! That's about 100 bottles of water. Washing clothes uses more water than we think.

次に、「それらの水はどこで入手できるのか」という問いを投げかけます。川や湖、雨水などをそのまま使うことには、衛生上の問題があることに気づく生徒もいるかもしれません。

そこで、生活用水として水を利用するためには浄水処理が必要であり、浄水場ではフィルターによるろ過や殺菌処理、検査などが行われていることを紹介します。さらに、その浄水処理を大量に行うためには、多くの電力が必要であり、ポンプや処理装置の稼働にもエネルギーが使われていることを理解させます。そこから、「その電力はどこから来るのか」という問いにつなげていければ、火力発電の仕組みや、そこから排出されるCO₂が地球温暖化や異常気象につながっていることまで発展させることができます。

こうした因果関係を追っていくことで、私たちがたくさん水を使えば使うほど、その背後ではCO₂の排出が進み、結果的に特定の地域で降水量の減少を引き起こしているかもしれない、というグローバルな視点が生まれます。この視点によって、「日本で水を使う私たちの行動」と「水不足に苦しむ人々の暮らし」とが結びつき、節水の意義や大切さを実感できるようになるのです。

もちろん、「水不足に苦しむ世界中の人々のために、節水しましょう」というストレートなメッセージも重要です。ただ、それだけでは「結局は、道徳的に良いことを述べているだけ」と受け取られ、生徒の心に響かないかもしれません。だからこそ、少し遠回りに見えても、論理的な説明を通して、生徒自身が節水することの意味を考え、納

得できるようにすることが、このレッスンの導入として重要なのではないのでしょうか。

指導例3 NC3 Lesson 7 “Design for Change”

■リスニングでスキーマを活性化させて、教科書と現実社会をつなぐ

このレッスンでは、身の回りのデザインが、見た目の美しさだけでなく、人々の行動を変える力を持っていることを学びます。まず、扉のページにある写真を説明する短いリスニング用のスクリプトを作成します。

（スクリプトの例）

Some people use stairs that show how many calories are burned. This simple idea, used in many buildings, helps people choose to take stairs instead of elevators. It supports a healthy lifestyle and saves electricity at the same time. If more people follow this idea, we can help both our bodies and the environment.

生徒は扉のページを開いた状態で、それぞれの写真の説明を聞きながら、その説明に該当する写真を選びます。この活動を通して、デザインとその機能（人々の行動を変える力）についての内容スキーマが刺激され、考えるきっかけになります。

その後、リスニングのスクリプトを書き起こしたプリントを配布し、文字で内容を確認させます。こうすることで、デザインによって人々の行動パターンが変わることに気づかせます。次に、校内や地域にある「人の行動を変えるためのデザイン」にはどんなものがあるか、生徒自身に考えさせます。ここで挙げた具体例については、デザインの目的や工夫に注目しながら、グループやクラス全体で共有します。その際、次のような観点から意見を出し合うと、さらに議論が深まるでしょう。

- ・そのデザインはどのような問題を解決しようとしているのか
- ・どのように人の行動を変えようのか
- ・景観や施設機能を損なわないようにどんな工夫がされているか
- ・さらに工夫ができる点はあるか

こうした議論は、レッスン末の言語活動（仮想の町における課題解決）にも生かすことができます。レッスンの最初に、身近なデザインの例を観察したり、考察したりしておくことで、後の活動もより豊かなものになるでしょう。

以上、教科書の題材を「いかに自分ごとにするか」という観点から、導入のアイデアを紹介しました。限られた授業時間で、毎回きめ細やかな導入や発展的な活動を行うのは難しいかもしれませんが、それでも、レッスンごとにメリハリをつけた指導を行うことは可能です。NCのトピックが授業を通して自分ごととなり、中学生の皆さんの学びが最大化されることを願っています。

題材を自分のことばで語る 表現活動へとつなげる工夫

会田 裕子
(国分寺市立第一中学校)



ことばを介して他者と、そして社会とつながろう

表現活動につなげる道筋を立てる

まず始めに、英語に限らず、私たちは普段どのように自分の言いたいことを見つけ、ことばにしているのでしょうか。細川(2021)は下の図を用いて「私」が自分のことばで語るまでの道筋を示しています。

自分の言いたいこと・考えていることは、他者とのやり取りの中でだんだんと姿を現します。自分の「好き」から生まれ、多様で様々な方向を向いていた興味・関心が、毎日の生活や仕事を通して、目の前のいくつかの対象に向かって集中する過程で問題関心に高められ、自分に関連する事柄になることで問題意識となります。こうやって意識化した「自分のテーマ」を、最終的に自分の経験と結びつけて他者に伝えようとする試みがオリジナリティにつながっていくのです(細川、2021)。

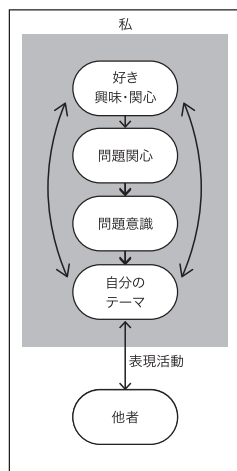


図 表現のロンド、循環の図
(細川、2021、p. 47)

「どの立場で」「誰のために」「何をしてあげるか」を明確に

では、日頃の生活であまり馴染みのない社会的・科学的・歴史的題材を、どのように「問題関心」へとつなげ、自分ごととして捉えることができるのでしょうか。私は、以下の4つのポイントを意識しています。

① 日常生活に結びつけていくこと

まずは題材を身近な事柄と結びつけ、スライド等を示しながら理解可能な英語を使って生徒に紹介します。小学校の教材、海外のESL教材、子供向けニュースなどを参考にすると、英語で伝えても十分理解できる課題になります。

② 現状の問題を示し、目の前の人々が困っているのだと訴えること

困っている人のためにできることは何か、どのような表現の工夫ができるかという問題解決型の活動にします。

③ コミュニケーションの相手が誰なのかを具体的に示すこと

相手を実在の人物にすることで「この人ならこんなことが必要だろうな」という相手の立場への配慮が生まれます。

④ 伝える内容の主語は必ず「私」にすること

既存の情報ではなく「**私なら**どう伝えようか」と、生徒自身のフィルターを通した考え方を引き出すきっかけを作ります。

「学ぶ存在」から「相手と学び合う存在」としての生徒像を

私たち教員は「教師は教える存在、生徒は学ぶ存在」という価値観を当たり前のようにもっています。しかし生徒たちは「英語の学習者」という立場以外に、例えば「家族の一員」「友だち」「中学生」「地域住民」「日本人」というように様々な立場をもっており、それらを（意識・無意識に関わらず）使い分けながら社会の中で活動しているのです。現行の学習指導要領が参照しているCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）(Council of Europe, 2001)では、学習者をsocial agents（社会で行動する者）と捉えています。

言語活動を設定する際には、生徒が一方向的に言語規則を学ぶだけの活動ではなく、**様々な立場で社会に働きかけ、活動を通して学びを得る双方向の活動**になるように仕掛けを作ります。

以下の表に、令和7年度版NEW CROWN（以下、NC）の題材を用いて取り組むことができる「問題解決型」言語活動をまとめました。

表 教科書の題材を用いた「問題解決型」言語活動例

どの立場で	誰に	何をしてあげるか
〇〇中学校の生徒	新しく来たALTに	学校生活について説明する (1年 Lesson 6)
地域住民の一人	地域に住む外国にルーツを持つ方に	地域のおすすめの場所を紹介する (1年 Lesson 8)
〇〇県民	〇〇県に来る外国人観光客の方に	県内のパワースポットを紹介する (2年 Lesson 5)
SDGsを学ぶ中学生	シンガポールの中学生に	昔からある生活の知恵を紹介する (2年 Lesson 6)
音楽好きの一人	クラスの友だちに	洋楽の魅力を伝える (3年 Lesson 2)
	日本語を学ぶALTに	歌いやすい日本語の曲を紹介する (3年 Lesson 2)
日本語母語話者	日本に住む留学生に	会話の糸口になる日本語を紹介する (3年 Lesson 5)

次に、「問題解決型」言語活動の指導例を紹介していきます。

指導例1 NC3 Lesson 3 “Cranes for Peace”

- ・テーマ：平和の維持
- ・どの立場で：日本の中学生の立場から
- ・誰のために：広島に来る世界の人々に
- ・何をしてあげるか：自分にとっての平和とは何か、そのためにできることは何かを伝える

修学旅行を控えた生徒たちにオーバーツーリズムの現状を伝え、京都や奈良と同様に、人気の修学旅行地である広島について紹介するところから導入を始めます。広島に関する背景知識からG7広島サミットの話に触れ、各国の首脳陣が訪れた平和記念公園、英語ガイドを務めた小倉桂子さんについて話します。これは教科書Part 1と重なる部分でもあります。また、次の授業で「被爆者の高齢化から、日本人の若者が戦争の悲惨さを語り継ぐ必要がある」という問題提起をし、日本の中学生として平和のメッセージを広島へ届ける活動をゴールとすることを伝えます。

Part 2 では、ケイトが見た展示を再現するようにスライドで平和記念資料館の展示物を示します。原爆の子の像が佐々木禎子さんの友人たちの協力で生まれたという史実や、広島の中学生によって書かれたピースメッセージなどから、平和を発信できる中学生のイメージを生徒たちに持たせます。

メッセージを書く段階では「**私**にとっての平和」と、それを後世まで守っていくためにできることは何かという問いに向き合うため、日本語で骨子を考える時間をとりました。題材への深い理解から生まれた生徒の表現は、とても心揺さぶるものになりました。（※活動の詳細は会田（2024）をご参照ください。）

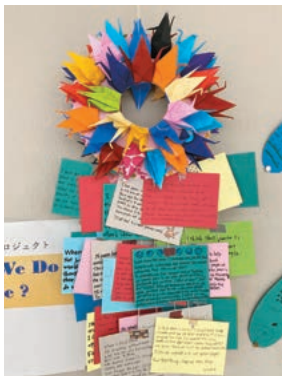


写真1 広島に送られた千羽鶴

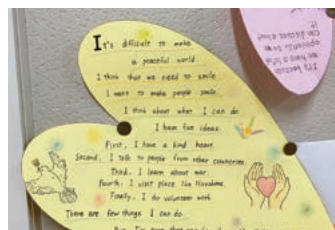


写真2 実際の生徒の作品



写真3 廊下に掲示された生徒たちのメッセージカード

指導例2 NC3 Reading Lesson 2 “I Have a Dream”

- ・テーマ：人種差別の歴史と多様性の尊重
- ・どの立場で：友だち（相手をよく知る人物）の立場から
- ・誰のために：クラスの友だちに
- ・何をしてあげるか：その人らしさ、内面的な素晴らしさを伝える

ディズニー映画『白雪姫』のヒロインの肌の色について賛否論があったことを導入として、BLM（Black Lives Matter）ムーブメントの説明から、今なお人種差別問題が続く現状を問題提起にします。奴隷制度から公民権運動までの歴史を追いながら、教科書の写真にある“colored”という単語に注目させ、黄色人種やアジア人への差別の実態に触れます。生徒たちが差別を「自分の問題」と捉えた上で、教科書本文を読んで考えたことを英語でまとめました。

そこからもう一歩踏み込み、3年生最後の授業で再びこの題材を扱います。問題提起は「**私たち**の中に差別はないか？」です。サイドリーダー教材として、在日アフリカ系カナダ人Kinota Braithwaiteさんによる絵本*Mio The Beautiful*を読みました。この物語では、日本とカナダの2つのルーツをもつ作者の娘さんが、人種の違いを理由に日本の小学校で受けたいじめについて描かれています。

読み終えた後、キング牧師の演説の一節「私は肌の色ではなく、人物の中身によって判断される国を望む」の箇所を全員で音読し、相手の内面的な良さや素晴らしさを英語で伝える言語活動“What makes me unique?”を行いました。この活動では、メッセージカードを自分の背中にクリップで留め、友だちに自分のユニークなところ、魅力的なところを書いてもらいます。寄せ書きとは少し違う即興的な活動の後、Cyndi Lauperの*True Colors*を聴きながら、静かにメッセージと向き合うという感動的な時間が生まれました。



写真4 ALTと一緒に活動をする生徒たち

【参考文献】

- ・細川英雄（2021）『自分の〈ことば〉をつくる—あなたにしか語れないことを表現する技術』ディスカヴァー・トゥエンティワン
- ・Council of Europe. (2001). *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge University Press.
- ・会田裕子（2024）「あなたにとっての平和とは—中学3年生『ピースメッセージを書く』」『英語教育』6月号、pp.22-23、大修館書店
- ・Braithwaite, K. (2021). *Mio The Beautiful* (“Empowering Reads: Fostering Diversity, Inclusion, and Resilience in Children”). Independently published.

東大阪市立義務教育学校
くすは縄手南校 後期課程

清家 大地先生
(8年生担当)



私が授業を作るときに大切にしているのは、「運動量」です。以前、体育の先生と授業について話していたときに、「生徒の運動量を確保すること」を意識して授業を設計していると伺いました。その話を聞いて英語の授業でも同じように、生徒の「運動量」、つまり「発話量」をいかに確保するかが重要だと考えるようになりました。

私が重視しているのは教師の発話量ではなく、生徒がどれだけ英語を使って話しているかです。たとえ間違いがあっても、自分の言葉で表現し続けることができる。そして誰もが安心してチャレンジすることができる。そんな教室をつかっていきたいと思っています。

授業紹介

授業開始

Warm-up 先週の映画見た? (10分)

本時では、前週にテレビで放送されていた「金曜ロードショー」の話題に関連した Warm-up を行いました。私の大好きなジブリ映画が放送されていたので、どうしても話したくなってしまったのです。「どんなジャンルの映画が好き?」というトピックの Small Talk につながるよう、fantasy / action / comedy など、教科書の Word Bank に載っている映画などのジャンルを表す表現を確認し、Small Talk を行いました。生徒たちの一番人気は romance movies でした。この表現は教科書には載っていませんが、普段の Small Talk で恋愛映画の話をしている生徒が多かったので、こっそり加えておきました。

このように、教室内外での生徒との何気ない会話やトレンド、学校行事などを Small Talk のトピックに取り入れることで、授業づくりがより楽しくなりますし、生徒たちの会話も生き生きとした、リアルなものになります。

教科書本文

Side Story (15分)

教科書の本文については、以下の流れで進めました。

- ① 音声を聞かせて、会話の流れを確認
- ② New Words の発音や意味を確認
- ③ 発音チェック
- ④ ペアでの音読練習



発音チェックの様子

「③ 発音チェック」では、borrow / think の2語の発音を一人ずつチェックしました。これは、その前の授業で th の発音が不十分な生徒が多く、「今度発音チェックするからね」と予告しておいたためです。一人ずつ発音をチェックし、合格したら座る。これを2ラウンド行いました。私は発音チェックにおいては、決してオマケはしません。ダメなものはダメだとはっきり伝えます。なかなか合格できずに悔しがる生徒もありますが、合格した時の喜びは、その後の音読練習のモチベーションにもつながります。もちろん、毎回授業で行うわけではありませんし、チェックには時間がかかります。しかし、英語が苦手でも、耳が良く、発音がとてもきれいな生徒もいます。この活動はそんな生徒たちが輝く場面でもあります。実際に、発音チェックで褒められたことを覚えている生徒も多く、「先生が発音を褒めてくれたから、自分の英語に自信が持てた」と言ってくれる卒業生もあり、嬉しい限りです。

発音チェックの後はペアで音読練習をしましたが、この後に教科書の本文をもとにした会話練習を行う予定だったので、音読はほどほどにとどめました。私はどちらかというと教科書に忠実に授業を進めるタイプですが、時間が足りなくなったり、生徒のレベルに合わなかったりすることも少なくありません。目の前の生徒の実情に合わせて内容を削ったり、より発展的な活動にしたりすることも、教師の腕の見せ所だと感じています。

また、このページを音読していて気づいたのですが、最近はDVDでビデオを見る生徒は少ないんですね。私自身もそうですが、今はストリーミングなどの動画配信サービスで視聴することが主流になっているようです。授業準備の段階では気づかなかったことも、生徒とのやり取りの中で改めて気づかされることがあります。

Lesson 2 指導計画

Part 1 (2時間) 単元目標の設定

「小さい頃に好きだった本は？」

Part 2 (2時間)

「ピーターラビットの作者についてまとめよう」

Part 3 Side Story (1時間)

「それ貸してくれる？」

単元末のライティング課題に向けて、見たことのある映画のジャンルや感想を言ったり、書いたりできるようになる

Small Talk Plus

(他のページで会話を見とる場面があったので今回はスキップ)

Goal Activity (2時間)

ライティング課題「おすすめの本を教えて」

Language Focus (1時間)

文法のまとめ

本時の授業

Book 2 Lesson 2 (5時間目)



会話練習

それ貸してくれる？ 会話を練習しよう (15分)

教科書の本文をもとにしたスライドを提示して、ペアで会話練習を行いました。下線部や感想を言う部分は、自分なりの表現に変えて会話をします。Aさんしか変えるところ（下線）がないから、そのまま読む生徒が多いかなーと思っていましたが、前のページで学習した好きなキャラクターの話を持ち出して、“I think the characters are cool.” や、“It’s a sad story. I was moved.” のような表現を使っている生徒がいて感心しました。

このように積極的に色々な表現を使おうとしている生徒の発言はできるだけ取り上げて、クラス全員で惜しみない拍手を送るようにしています。生徒たちのチャレンジ精神にはいつも驚かされます。

それ貸してくれる？ を練習しよう

A: I watched the Peter Rabbit movie.

(感想を言いましょう)

I think Peter Rabbit is an adventure movie.

B: Did you watch it at home?

A: Yes, I have the DVD.

B: Can I borrow it?

A: Of course. I'm sure you'll like it.

授業で使ったスライド

話したことを書く

話したことを書いてみよう (10分)

最後に、これまで話してきた内容をノートに書き取ります。くすは縄手南校の英語科では、「話してから書く」という流れを大切にしています。以前は「書いたことを話す」スタイルでしたが、その順番では「正しい英語で話さなければならない」というメッセージを生徒に与えてしまっていることに気づきました。そこで今は、間違いを恐れず、自分の言いたいことを英語で話すことを大切にしています。たとえ会話練習で間違いがあっても、「書く時にその間違いに気づき、正確に書けるようになればOK」という気持ちで取り組んでいます。

また、黒板に何人かの発言を書きおくと、それを参考にする生徒もいます。英語が苦手な生徒にとっては、それらの表現を書き写すことが、学習の第一歩になりますね。

授業終了

授業を終えて

本時の授業は、“Can I borrow it?” の表現だけでなく、見たことのある映画のジャンルや感想を話したり、書いたりすることを通して、単元末のライティング課題「おすすめの本を教えて」へとつなげることをねらいとして行いました。英語が得意な生徒は、単元で学んだ表現を自分なりに工夫して使用する姿が見られました。一方で、授業の内容が十分に定着しておらず、何を書けばよいかわからずにフリーズしている生徒もいます。そんな姿を見ると、自分の授業がまだ十分に届いていないのだと、反省するばかりです。それでも、困っている生徒に手を差し伸べてくれるクラスの仲間がいます。これからも、そのような仲間の力を借りながら、英語の授業を通して「協働する力」や、「課題をやり抜く力」を育てていきたいと考えています。

生徒のニーズを活かす英語授業①

教科書を用いて語彙の習得を進める工夫

日基 滋之 Hidai Shigeyuki (拓殖大学)

語彙に関わる学習者の声

語彙に関わる問題は学習者だけでなく、教師にとっても悩みの1つです。学習者からは切実な声を聞きます。例えば、英単語が覚えられない、覚えてもすぐに忘れる。日本語に対応する英単語がなかなか出てこない。日本語で考えた思いをどう言ったらよいかわからない。英単語の並べ方がわからない。英単語の意味やスペリングがわからない。英単語の発音ができない、わからない。こういった語彙に関わる問題は、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことに支障をきたす原因になりますし、英語学習を苦痛にしてしまう要因にもなるでしょう。

Wilkins (1972) は、適切な語彙を知っていれば、言葉での何らかのやり取りが可能になるが、語彙がなければ不可能であると述べています。言語習得において、語彙の習得が大切であることを認識します。

語彙を習得するうえで必要なステップ

語彙を習得するうえで、noticing (語彙への気づき)、retrieval (想起・思い起こし)、creative use (創造的使用) という一連の3つのステップが大切であると言われています (Nation, 2001)。

NEW CROWNでは、各レッスンのPart 1とPart 2の最初にSmall Talkが配置されており、与えられたトピックについて、これまで学習した語彙を思い起こして、ペ

アで話す活動が3学年を通してくり返し用意されています。生徒にトピックに関するワードリストや、巻末の「いろいろな単語」などを参照させ、使ってみたい単語に注意を向けさせることで、単語に気づきを得る機会になります。そして生徒は学習した語彙を思い起こし、自身のことに引き寄せ、新しい文脈の中で創造的に語彙を使用することができます。

ドリルやワークシートでは、各Partで学習した語彙を思い起こすことで記憶が強化されます。教科書やワークシートの活動をくり返すことで、Goal ActivityやProjectなどの言語活動での語彙の創造的使用に繋がり、語彙が定着していきます。

辞書引きのスキルを身につける

学習を促進する最初のステップは気づきで、生徒に単語に注意を向けさせることです。辞書で単語を調べる時にも気づきが生じます。

辞書指導では、クラス全員が同じ辞書を所有していると、辞書引き競争なども実施でき、指導がしやすいです。1年 For Self-study 2で引き方を学ぶこともできます。

また、学習した文構造や文法事項の用例探しをしながら、くり返し辞書引きをすることで辞書引きに慣れ、文構造や文法事項についての理解も深まります。辞書で引いた単語と、その意味の下に赤線を引き、

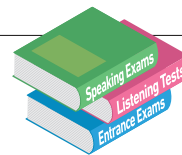
同じ単語を2回目に引いた時にはその単語をマーカーさせるなど、生徒自身がその単語を思い起こすことで、記憶に留まり、重要度を自覚します。

英語で表現したかったことに目を留める

「やり取り」の活動で、英語でどう表現してよいかわからず、会話が中断してしまうことが起こります。対策として、活動後のふり返しシートに、英語で表現したかったけれど表現できなかったことを日本語で書いてもらい、それらをALTとで英訳します。後日、授業でフィードバックすると、その後の授業で、生徒がその表現を使っている場面に出会うことがあります。これは生徒にとって知りたい表現だけに、記憶に残りやすく、定着しやすいからです。

Nation (2008) は、語彙を教える際に効果があるのは、学習者が最も必要だと感じる時に支援を提供することであると述べていますが、納得がいきます。

Goal ActivityやProjectのような「発表」の活動でも、ふり返しとして、生徒が英語で表現したかったことを集め、英訳し、日本語と英語の一对一対応にすることで、より詳細な「英語で言いたかったこと」の日英パラレルコーパスを構築できます。生徒の発した表現だけでなく、英語で言いたかった表現にも目を留めたいものです。



David Allen (Ochanomizu University)

As a language learner, I was recommended to take the Japanese Language Proficiency Tests as a way to motivate myself to study. Preparing for the tests certainly gave me a motivational boost. I remember drilling masses of vocabulary and grammatical constructions, and practicing reading and listening regularly. I passed the lowest level test and then continued to move up the levels.

As this anecdote suggests, assessments can influence learning and teaching in many ways. They can be motivational, they can influence the content and methods of learning and instruction, and they can influence attitudes towards language learning. In applied linguistics research, these influences are called *washback effects*. Essentially, *positive washback* occurs when an assessment supports the achievement of learning aims, and *negative washback* occurs when an assessment hinders the achievement of these aims.

In my case, my Japanese improved over time, especially in terms of my linguistic knowledge and receptive skills, which indicates some positive washback. However, I never received any comprehensive form of instruction regarding how to talk or write in Japanese. I had hoped to become a good all-round

communicator, but not studying speaking and writing hampered my progress. Therefore, the test had some negative washback on my learning.

When we talk about learning English in schools, assessments include the regular quizzes and performance tests used in classrooms to guide learning, and the high-stakes entrance exams and proficiency tests taken to enter schools and universities. All of these assessments are important and influential, and all may be the subject of *washback research*.

The goal of washback research today is to engage with test users and test developers to promote positive washback. In Japan, research to date has investigated the washback effects of using classroom speaking tests, four-skills English proficiency tests, the former Center Test (Listening), the Common Test, and other English exams used for entrance to university.

We can all reflect critically on how we use assessments in our learning and teaching, and the influences of doing so. In this way, we can actively *work for washback*, thereby improving both the learning process and its outcomes.

Allen, D. (Ed.) (2025). *Washback research in language assessment: Fundamentals and contexts*, Routledge.



リクツで納得! 学校英文法の「文法」 亘理 陽一 (中京大学)

In the shape of apostrophe s ('s)



前回 (TEN 55) 取り上げた複合名詞句と並んで、「of句を持つ名詞句」との違いに悩ませられる存在が、“...’s”を用いる「属格」の表現である。端的な例を挙げれば、“Sadako’s story” (NC3, p.31) と “The Story of Sadako” (NC3, p.32) の違いは何なのかということだ。こういう時に「同じだよ」とあしらわれてしまうというライラ&モヤモヤして先に進めない私のような生徒には、「リクツで納得!」の出番だ。

正確を期すと属格の構造は、文中のどこに現れるかによって6種類に分けられる (Huddleston & Pullum (Eds.), 2002, pp. 472–478)。 (a) “Sadako’s story” のように決定詞の役割を果たすもの、 (b) “the way of making music” (NC3, p. 41) を the way of Ed’s making music とするよう、動名詞の前に置かれるもの、 (c) “My bag is not as big as yours.” (NC2, p.78) のように your bag が置き換えられたもの (固有名詞であれば、例えば Taylor’s となる)。 (d) “The Story of Sadako” のように of 句で表現されるもの、 (e) “It’s not mine. It’s Hana’s.” (NC1, p.72) のように述部に現れるもの、 (f) “each person’s needs” (NC3, p.73) のように修飾語の役割を果たすものである。

この分類でいくつかの特徴が浮かび上がる。まず (a) は、属格が決定詞の役割を兼ねるので、冠詞や指示詞を前に置いて “a Sadako’s story” や “those Sadako’s stories” とすることはできない。一方 (f) は、特定の「一人ひとりに必要なもの」に言及して

いる文脈であれば the each person’s needs とすることができるし、old people’s home のような例であれば a luxurious old people’s home と修飾語を重ねることもできる。さらに (a) は、a story of Sadako ではなく、(d) と同様に「定」 (TEN 51) と解釈される。

“each person’s needs” で表現されている内容 (難しく言えば属格で表された従属部の主要部名詞句に対する関係) は、Each person **has** needs. と文で表現できる (each と needs の関係で明らかのように、each person の needs であって、each の person’s needs ではない)。ここでの “has” のように、“...’s” によって表現される意味は多岐に渡る (Huddleston & Pullum (Eds.) (2002) は 23 の例を挙げている)。例えば “Riku’s Recommendation” (NC2, p.22) の陸は紹介する人で、(文脈によって様々な解釈があり得るが) Dr. Sakai’s book の酒井先生は本の著者である。

(a) と (d) の使い分けには、この「意味」が関係している。(d) の構造しか許されないものがある (例えば量や大きさを表す場合、the glass of red wine や the rise of 2% とは言えない)。一方、人間や動物、時や地名を表す名詞句は (a) の構造が好まれる (the cat’s paw や October’s weather, London’s pubs など)。加えて、ケイトが “Sadako’s story” に続けて “her story” と言っているように、代名詞の場合は

(a) の構造が強く好まれる。(a) の構造であれば、話し言葉において複数形の名詞句を目立たせずに済むという利点もある (the king’s horses and the kings’ horses は区別できないが、(d) の構造だとどちらを用いたかが明確になる)。

この説明に照らすと “Sadako’s story” が通常好まれることになるものの、“The Story of Sadako” という表現も認められる。どう考えたらよいのだろうか。ここでの違いはごく微妙なものではあるが、“Sadako’s story” は視点が「禎子さん」にあるのに対し、“The Story of Sadako” は視点が「物語」にある。ケイトや丘先生は、“many people’s lives” のうち、“Sadako’s story” や “her life” にフォーカスを当てて話している。一方、ケイトが持っているパンフレットは特定の物語を伝えようとしていて、それは禎子さんに関するものという論理になる。この違いは、Mary’s sister が、他でもなく「メアリー」との関係性を伝える表現として、the sister of Mary より好まれ、事故の「結果」を報告する際 the accident’s result よりも the results of the accident のほうが好まれることを見れば、いくらか分かりやすいだろう。

前回に続き Coldplay で恐縮ながら、以上を踏まえて “Another’s Arms” を聴いてもらえれば、“your arms around me” と対比された喪失感 (故に「別の誰か」のことを考えてしまう哀れさ) をより深く味わうことができる。

Q&A

Question

NEW CROWNの巻末のCan-Doリストを効果的に
使うには、どのようにすればよいでしょうか。



白倉 美里 (東京学芸大学)



Answer

Can-Doリストは生徒が成長を実感するためのツールとして
活用できます。学びの積み重ねを意識して、生徒が「ふり返りたい」
と思うような授業を目指しましょう。

Can-Doリストは何のため?

Can-Doリストは、NEW CROWNを使った3年間の学びを通して、英語を使ってどのようなことができるようになってほしいかを、4技能5領域ごとに示したものです。リストの中身を見てみると、「案内図やチラシなどを読んで、自分が必要な情報を読み取ることができる」(1年「読むこと」)とか「日常的な話題や社会的な話題について、読んだ英文の内容を踏まえて、簡単な話し合いをすることができる」(3年「話すこと[やり取り]」)のように、特定の文法事項の習得や題材の理解には言及していません。これは、Can-Doリストが、複数の単元の学習を積み重ねた結果、英語を使ってどのようなことができるようになるかを記述しているためです。

Can-Doリストをどう使う?

もっとも典型的な使い方は、学年末に巻末の「What Can I Do?」に掲載されている4技能5領域のCan-Doリストを使い、生徒に自己評価をさせます。ここで大切なのは、「すべてが完璧にできていなくてもよい」ということです。Can-Doリストによる自己評価は、生徒の学習状況を教師が評価するために使うものではないため、「自信を持ってできる」という項目が多ければ多いほどよいというわけではありません。学びのペースは生徒一人ひとり異なるため、全体で目標を共有したとしても、必ずしも全員が足並みを揃えて進んでいく必要はないのです。むしろ、自分が今、何がどのくらいできている

のかを生徒自身が自覚し、主体的に学びに取り組めるような自律性を養うことが肝要です。

例えば、1年生の終わりに自己評価に使ったCan-Doリストを、翌年(2年生)の途中あるいは学年末に、再び使うこともできます。1年終了時点では「助けがあればできる」と自己評価していた項目が、2年終了時点では「自信を持ってできる」になっているかもしれません。また、Can-Doリストの再利用のタイミングで、1年のSmall Talk PlusやTake Action!を生徒に再びやらせてみるのもよいでしょう。このように、1つ前の学年の言語活動及びCan-Doリストを再利用することで、「できないこと」よりも「できるようになったこと」に目を向けさせてあげましょう。

ふり返りの練習と習慣化

学年末のタイミングで生徒にいきなり「1年間の自分の学びをふり返ってみよう」と指示しても、なかなかうまくはいきません。そこで、NEW CROWNには「ふり返りの積み重ね」ができるようなしなかけがあります。Goal Activity、Take Action!、Projectなどのページには「ふり返り」のコーナーがあり、生徒はそのページで取り組んだ学習の成果を自己評価します。ここでのふり返りは、巻末のCan-Doリストの内容よりも具体性が高いため、生徒は取り組みやすく、ふり返りの練習をすることができます。このようなふり返りの積み重ねが、Can-Doリストを用いた包括的なふり返りへとつながってい

きます。

生徒がふり返りたくなる授業をしよう

Can-Doリストは教師が生徒を評価するために用いるものではなく、生徒自身が自らの学びをふり返るために使うものです。このようなふり返りは、ともすると形骸化しがちです。生徒が自分自身のためにふり返りに取り組むようにするためには、生徒がふり返りたくなるような授業を目指すべきです。つまり、生徒に「ただ自分が成長したかをふり返ってみたい」と思わせるような授業です。

NEW CROWNでは、生徒が学びを積み重ねて成長を感じられるように、各活動が有機的に結びついています。例えば3年 Lesson 4では、Part 1のSmall Talkで「好きな映画」について、Part 2のSmall Talkで「好きな俳優や映画監督」についてペアで話し、直後のSmall Talk Plusでは「Do you prefer Japanese movies or foreign movies?」というテーマで、相手の意見を受け止めた上で、自分の意見を言う練習をします。そしてこのSmall Talk PlusはCan-Doリストの「話すこと[やり取り]」の「日常的な話題や社会的な話題について、即興で会話を続けたり、感じたことや考えたことを伝え合ったりすることができる」につながります。

生徒が自分の成長を実感するためのツールとして、ぜひCan-Doリストを活用してみてください。

三省堂 教科書・教材サイト Webコラム

中学校の先生方へ向けた英語のWebコラムをご紹介します。



内容について

大島希巳江先生の連載コラム。
英語落語を通じて見えたグローバル英語のあり方を探ります。

これまで扱ったテーマ

No.29 「ウン」と「冗談」の境界線
No.32 言語と言語の境目：翻訳のはざまで起きること

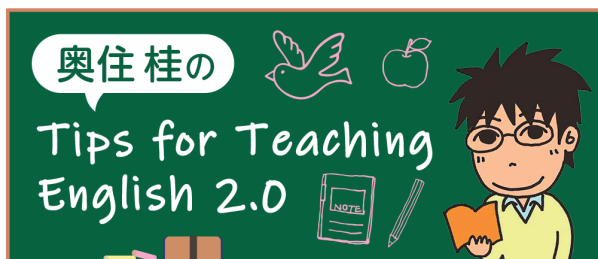


内容について

工藤洋路先生・津久井貴之先生が、コーヒー片手に「ゆるっ対談」しています。
トレンドキーワードへの見解を、理論から実践まで幅広く語ります。

これまで扱ったテーマ

No.36 まずは先生が生成AIを使ってみよう！
No.37 「学校の先生＝ブラック」問題



内容について

奥住桂先生の豊富な指導経験と理論に基づき、授業の引き出しを増やす
実践的なアクティビティや指導の工夫を紹介します。

これまで扱ったテーマ

No.1 3ステップで英語の歌をマスター！
No.2 教科書音読シート

アクセスはこちらから

●<https://tb.sanseido-publ.co.jp/column/>



ことまな学校サポートサイト Teacher's Manual 補充データ

Teacher's Manual付属の各種データに加えて、指導や評価に活用できるさまざまなデータを提供しています。
また、授業にお使いいただける補充データを逐次更新・追加しております。ぜひ、ご活用ください！

- **評価事例** 学期ごとの評価を支援する、テスト例やふり返しシートです。
- **教科書対応Googleフォーム** レッスンごとの学習事項が確認できるGoogleフォームです。
- **資料映像のスクリプト** デジタル教科書(教材)やQRサイトで提供する資料映像のスクリプトです。
- **デジタル教科書・教材使い方ガイド** 基本機能や各コンテンツを使いこなすためのマニュアルです。



アクセスはこちらから

●<https://www.sanseido.jp/support/login>



「ことまな学校サポートサイト」は、令和7年度版『NEW CROWN』のTeacher's Manualをご採用いただいている学校ごとの専用サイトです。
ご利用には、Teacher's Manualの購入および登録が必要です。

令和7年度版

NEW CROWN

学習者用デジタル教材のご案内



レベル別の学習コンテンツと学習記録で自学をサポート！



日々の学習をサポートする機能とコンテンツ！

① レベルに応じた家庭学習モード

デジタルコンテンツを活用しやすくする
『家庭学習モード』を搭載！家庭学習モードでは、生徒ひとりひとりのレベルや技能に応じた効果的な学習メニューを提案します。提示された学習メニューに取り組むことで、日々の学びを積み重ねていくことができます。さらに、学習履歴の記録・閲覧機能を使って、学びのふり返りが可能です。

② 教科書も教材もシームレスに使える ③ 豊富なワーク・ドリルコンテンツ

教科書紙面から直接、
各コンテンツを呼び出す
ことができます。文法、単語、英作文
といったワーク・ドリル
コンテンツを豊富に収
録しています。

「辞書付」なら、教材にプラスして辞書も使える！

学習者用デジタル教材「辞書付」なら、最新の『ジュニアクラウン中学英和・
和英辞典第13版』が丸ごと活用できます。語彙学習の強化に！

■ 学習者用デジタル教材[教科書・教材一体型]

品名	ライセンス期間	ライセンス形式	価格
学習者用デジタル教材 (各学年)	教科書刊行期間	生徒あたり 1ライセンスが必要	550円(税込)
学習者用デジタル教材 辞書付 (各学年)	教科書刊行期間※	生徒あたり 1ライセンスが必要	1,100円(税込)

※辞書コンテンツのみ、購入年度内に限り有効。継続してご利用いただくためには次学年の購入が必要です。
別途、デジタル教科書の販売もございます。価格等の詳細はお問い合わせください。

*株式会社Lentrance の提供するLentrance Reader でのご利用となります。対応環境は、Lentrance Readerに準じます。

*学校採用専売の商品です。一般向けに販売する商品とは異なります。

本紙掲載の会社名、製品名、商品名などの名称は、各社の登録商標または商標です。

三省堂 小・中学校 教科書
LINE 公式アカウント
はじめました！授業のお役立ち情報を
定期的に配信中！

友だち募集中！

三省堂 〒102-8371 東京都千代田区麹町5-7-2

三省堂 教科書・教材サイト <https://tb.sanseido.co.jp/>

※この冊子は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って配布しております。